



Title	彙報・編輯後記
Author(s)	
Citation	懷德. 1955, 26, p. 80-82
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90289
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

彙報

(懷德堂記念會)

○昭和二十九年九月二十一日、本會事務所を大阪市東區北濱三丁目三十番地に移轉、同時に事務連絡所を鷺中市柴原大阪大學文學部内に設けた。

○十月二十五日より三十日まで（二十六日を除く）五日間、本會及阪大文學部主催、大阪市大文學部、朝日新聞社後援で、阪大醫學部第二講堂に於て、毎日午後六時より七時半まで、第八回懷德堂秋季講座開催、聽講者延五百人。

演題と講師

演題と講師

元 遣 山 の 史 詩 稿	阪 大 教 授 木 村 英一 先 生
王 維 の 話	京 大 教 授 鈴 木 虎 雄 先 生
齊 民 要 術 と 中 國 の 農 業 物 語	立 命 大 教 授 橋 本 稔 先 生
源 氏 物 語	京 大 教 授 天 野 元 之 助 先 生
中 國 の 辭 書 類	關 大 教 授 島 田 退 疊 先 生
	同 石 濱 純 太 郎 先 生

(懷德堂堂友會)

○昭和二十九年十月五日「懷德」第二十五號發行。

○昭和三十年一月一日 會則改正、（別項掲載）本年より懷德堂から補助を得て見學會などを復活することとした。

○六月五日 見學會復活第一回として、澤瀉久孝先生の指導で飛鳥の萬葉遺跡を見學參加者五十名。

③ 萬葉遺跡見學　来る十一月十三日（日曜）萬葉學會に合流して
二上山に登り當舡に下る。

指導澤瀉久孝先生

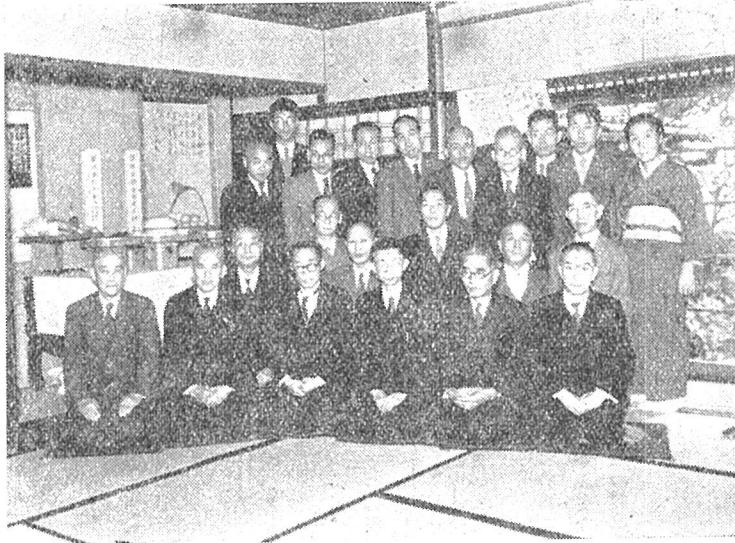
參加希望者は、鷺中市柴原阪大文學部内懷德堂堂友會宛申込ん
で置いて下さい。詳細は後日通知します。

する講演があつた。

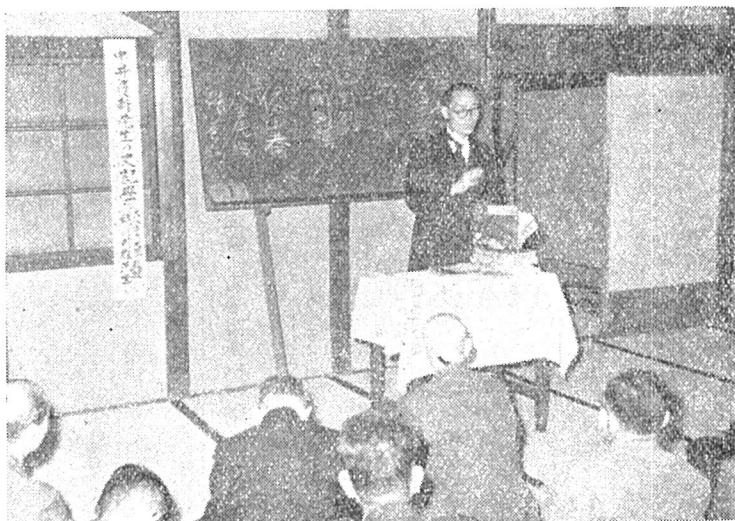
○昭和三十年五月二十三日より二十八日まで、本會及阪大文學部主催、大阪市大文學部、朝日新聞社の後援で、阪大醫學部第二講堂に於て懷德堂春季講座開講、聽講者延五百人。

懷德堂記念祭典と記念講演會

昭和二十九年の記念祭典は、十月二十三日北濱三丁目の適塾に於て執行、終つて記念講演會を開いたが、疊の上の祭典、講演會は、これが初めてで、寫真は當日の模様である。



祭式典場



(上 樓塾適) 講演會場

編輯後記

○木村先生の「周易」、重澤先生の「春秋」、鈴木先生の「元遺山の史詩」の三篇は、嘗て我が古典講座を飾つた御講演の要旨である。聽講者には今なほ記憶に新たなるところであらう。

○今回は關西大學の高橋先生が、特に本誌の爲めに民俗學上の御蘿蔔の一端を御漏し下さつて、「猿の生肝」の一篇をいたゞくことが出来た。

○阪大國文學研究室に居られる八木氏は「契沖」について、また堂友會員片山氏は「王仁塚」について、いづれも平常の御研究に基づく興味深い読み物を提供して下さつた。こゝに御執筆下さつた先生方に對して厚く御禮申し上げる。

○堂友會の再建が漸く進んで來たので、こゝでひとまづ名簿と會則とを附けた。

○吾が堂友會の機關誌「懷德」は、全部懷德堂からの補助に依つて發行してゐるのであるが、更に本年より見學會、茶話會などを催す費用を補助していくこととなつた、重ね重ねの御厚意感謝に堪えぬ、厚く御禮申上げる。(藤塚)

訂正	第二十五號	明治醫學の一隅
誤	正	
ヨールリヒ	コツホ	
Ehrlich	Koch	
ヨールリヒ	コツホ	
Virchow	Virchow	
米糖	米糖	
米糖	米糠	
米糠	米糠	
米糠	米糠	